

⑥ 第6委員会

「安全で安心してくらすことができるまちづくり」



それでは、第6委員会の意見を発表します。

第6委員会のテーマは、「安全で安心してくらすことができるまちづくり」です。

このテーマについて考えるため、^{わたし}私たちは7月23日に特別消防隊の施設見学を行いました。

そこで、^{わたし}私たちは特別消防隊のビルからビルへ^{うつ}移ったり、壁を登ったりする^{きび}厳しい訓練を見ました。そこには、トンネルの中の災害や毒ガス発生の際に役立つ大型ブローカー車などの特別な消防がありました。また、^{おんきょうたんち}地中音響探知機、^{たんさ}画像探査機というマンホールの下など目に見えない人を見つけて救助する機材を見ました。そして、特別消防隊は一般の消防隊とは違うことや、人を救助するためのすごい車両、機材がたくさんあることがわかり、こういうものを使って一人でも多くの人を救助してほしいと思いました。その後、^{わたし}私たちは施設見学をしてわかったことや思ったことをもとに、名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするためには、何をすればいいかを考えました。

それでは、^{わたし}私たちが考えたことを順番に発表します。

○子ども議員

特別消防隊は、一般の消防隊と違い、とても危険な場所などの特別な災害にも対応できます。隊員は名古屋市でも96人しかおらず、その中でも現場に行くことができるのはわずか90人しかいないそうです。また、国内で大きな災害が発生した場合に緊急消防援助隊として、世界で大きな災害が発生した場合に国際消防救助隊 I R T としても活動できます。私は、特別消防隊員は自分の危険も顧みず、人の命を守れる勇敢な人にしかできない仕事だと思いました。特別消防隊員だけでなく、私たち一人一人の勇敢な行動も安全で安心してくらすことができるまちづくりに必要だと思います。

○子ども議員

特別消防隊を見学して、火を消すことより起こさないことのほうが大切だとわかりました。火事の原因は、たばこのポイ捨てやタコ足配線やガスコンロのつけっ放しなどが多いそうです。

予防できることとして、子どもやお年寄りがいる家に、注意のシールをつくって町内や学校で配り、電気コードやコンロのところに張るとよいと思います。万が一、大きな地震や火事などが起きたとき、名古屋市にはプロアー車やクレーン車、特殊災害対応車がある特別消防隊があるので、安全で安心して暮らせると思いました。

○子ども議員

僕^{ぼく}が一番印象に残ったことは、人の入れないところにいる人の救助方法です。特別^{しやうぼう}消防隊には普通^{ふつう}の消防署^{しやうぼうしよ}や出張所^{しゅっちやうじよ}には余りないものがたくさんあります。その中でも、人の入れないところにいる人を救助するときに使うものが二つあります。一つ目は、地中音響探知機^{おんきやうたんち}です。人の聞こえないような小さな音^{とら}を捉えて中の人を探す装置^{さが そうち}です。二つ目は、画像探査機^{たんさ}です。人が入れないところにカメラを入れて、中の人を探す装置^{さが}です。この二つの機材と消防士^{しやうぼう}さんの手によって、とても丁寧^{ていねい}で早い救助ができることがわかりました。

○子ども議員

今回^{しせつ}、施設見学^{さいがい}をしてみて、災害が起きたときのためにいろいろな工夫がされていることがわかりました。

ほかにも、災害^{さいがい}を経験^{けいけん}した人の話を参考^{わたし}にして、私たち子どもが大事なことをまとめた本や看板^{かんばん}を考えてつくったり、マスコットキャラクターを出したりして、災害^{さいがい}が起きたときに子どもでもすぐに思い出せるようにしておくとういと思いました。

○子ども議員

私は、特別消防隊を見学して自分の住むまちにこんなすごい消防隊があることを知って、とても心強く思いました。大型ブローカー車を初め特別な車や機械がたくさんありました。

名古屋にも大きな地震が来ると言われていますが、そのときは特別消防隊が大活躍してくれると思います。だから、特別消防隊の隊員さんをふやして、より多い地域で活動してもらいたいと思います。

○子ども議員

僕たちのまちには、特別消防隊という組織があります。特別消防隊は、一般の消防隊と違う点があります。その違う点というのが、人の助けにくいところにいる人や、見えないところにいる人などを助けることなのです。このことは、助けにくいところがこのまちにあるということです。そういうところを少しずつ減らすことが大切なのです。

ですが、例えばマンホール。ふたがあいていれば人が落ちることがあるので危険ですが、点検などするときは必要。つまり、安全や安心と一緒に便利を考えるべきだと思います。

○子ども議員

施設^{しせつ}見学^{ぼく}で僕はいろいろな特別^{しょうぼう}消防隊のことを知りました。例えば、トンネルの中で火災^{かさい}が起こったときに、煙^{けむり}を吹き飛ばす、すごい風^{ふう}を起こすブローアー車などです。火災^{かさい}や災害^{さいがい}のときに、このような機材を持っ^{しょうぼう}ている特別^{しょうぼう}消防隊が助けてくれるけれども、火災^{かさい}を起こさないようにしたり、災害^{さいがい}のときに人を助けるお手伝い^{ぼく}をしたり、僕たちにできることをやって、安全で安心して暮^くらせるまちにしていきたいです。

○子ども議員

7月23日に特別^{しょうぼう}消防隊^{しせつ}の施設見学^{ぼく}を行いました。そこで、僕は目では発見できない人を救助するための機材を見ました。そして、ここに来てすごい機材があることを初めて知りました。この機材を使って、一人でも多くの人を救助してもらいたいと思いました。僕^{ぼく}の住む名古屋には、災害^{さいがい}などの設備^{せつび}があるし、それにかかわる人もたくさんいて、僕^{ぼく}も大きくなったら消防隊^{しょうぼう}になりたいなと思いました。

○子ども議員

特別消防隊しょうぼうが使っている機材の中に、目では発見できない人を発見することができるものがあります。私わたしたちのまちで大地震じしんなどの災害さいがいが起きたとき、その機材を使うと、より多くの人を救助できるので、すごいなと思います。

また、地震じしんなどが起きたときのために建物を少しでも頑丈がんじょうにしたり、少しでも避難ひなんができるようにルートをつくるなどの対策たいさくをしたら、より安全で安心して暮くらせると思います。

○子ども議員

私わたしは、特別消防隊しょうぼうというところへ見学しに行きました。そこには、人を救助するための必要な機材や、場合によって対応する車などがありました。一番印象に残っているのは、人の聞こえないような小さな音でも捉とらえて中の人を探さがす装置そうちや、真っ暗なところでも人が見えない光も捉とらえて見えるようにする装置そうちが印象に残っています。そして、安心に暮くらせるまちにするには、もっと特別消防隊しょうぼうをふやして、一分一秒でも早く現場に着けるようになって、被害ひがいに遭あった人を早く助けてあげられるようになればいいと思います。

○子ども議員

私は、特別消防隊の見学をしました。そこでは、消防署とは違っていろいろな車や装備がありました。特別消防隊は、2011年に起きた東日本大震災でも活躍をしました。消防の仕事は、救急活動、地震等の災害対応などを行っています。特別消防隊は、通常の災害にも対応しつつ、特別な災害にも対応できるように高い知識や技術を持った部隊です。世界で大きな災害が発生した場合にも、国際消防救助隊として活動できる部隊です。それくらいとても頼りになります。私たちも、自分たちでできることはしていき、みんなで安全なまちにしていきたいと思います。

○子ども議員

僕たち第6委員会は、中川区にある特別消防隊第一方面隊を見学しました。特別消防隊はハイパーレスキュー隊とも呼ばれ、特殊災害に対応できる装備と知識を兼ね備えた隊員で構成されています。

そんな特別消防隊の見学の中で、僕が最も印象に残ったことは、特別消防隊の特徴と訓練です。特別消防隊は一般の消防隊よりもワンランク上の消防隊なので、車両も機器もとてもすごいものでした。また、その人たちの訓練も想像を超えるものでした。これらから考えると、名古屋を「安全で安心して過ごすことができるまち」にするには特別消防隊の規模をもう少し拡大することが必要だと思います。もう少し精鋭隊員をふやせば、さらによくなると思います。また、特別消防隊のお世話にならないために、僕たちが日ごろから防火に取り組むことも大切だと思います。

○子ども議員

僕は、特別消防隊を見学して、救助に使われる車や器具の種類と性能に驚きました。

事故や災害が起こったときにも被害が大きくならないようにしたり、少しでも早く救助できるように活動してくれる特別消防隊の存在は、僕たちに大きな安心感を与えてくれると思います。

僕たちも、自分自身でできる小さなことから一人一人が心がけていけば、小さな力も大きな力に変わります。みんながお互いを大切に思って協力して暮らしていくことが安全で安心してくらすことができるまちづくりにつながると 생각합니다。

私たち第6委員会は、このようなことが名古屋を「安全で安心してくらすことができるまち」にするために必要だと考えました。

これで第6委員会の発表を終わります。



■ 田辺都市消防委員長の答弁

議長の御指名をいただきましたので、第6委員会の皆様に一言申し上げたいと思います。

一番最後の発表ということで、緊張している時間がとても長くて大変だったのではないかというふうに思いますが、練習のとき以上の発表ができたと思います。大変すばらしかったというふうにまず申し上げたいと思います。

また、今回皆さんに行っていただきました特別消防隊の施設、これはなかなか普通の方が訪れることのできない施設でありますし、もしかするともう一生見ることもない施設だったかもしれません。初めて訪れる方がほとんどだというふうに思います。そういう施設を子ども議会の代表として見てきていただいたこの13人が、ほかの議員の人たちにこうやって堂々と発表していただきまして、ほかの議員の人たちも大変興味深く聞いていただきました。皆さんが見てきたこの名古屋の安全と安心な暮らしを支える一つである特別消防隊のことが、きっと皆さんに伝わったのではないかというふうに思います。

皆さんの発表の中で、命を救うということをやってくれるこの消防隊に対する高い評価をしていただきました。そこが大変私にはうれしく思いましたし、感動しました。命は大事だということを皆さんはもう既によくわかってくださっておりました。本当にありがたいというふうに思います。その命を助けることを、またすばらしいことだというふうに言ってくれました。いろんな、そのための設備があり、装備があり、隊員がいたことも、今回は皆さん学んでいただきました。そういうことを胸にして、また生活をしていき、人にも伝えていただきたいなというふうに



思います。

さらに、皆さんにはまた感じていただきたいことは、命を守るために
今回皆さんが見ていただいたようなこと、ふだんは絶対に人目に触れる
ことはないけれども、もしも何かがあったときには、必ずこの特別消防
隊が一人の命を守るために何人もの人が大きな機材を持って助けてく
れる。交通事故で車がひしゃげちゃったときに、如意棒という装置も見
せてもらいましたね。力でぐっと広げて、そこから人を助ける機械もあ
りました。ああいうものがあるというのは、これは税金を使って買って
そろえているわけなんです。大変高いものではありませんけれども、皆さん
がさっき言っていたとおり、命を守るために必要なので、この
税金を使って装備をしております。この税金は、皆さんがお菓子や
文房具を買うときに払う消費税、また、お父さん、お母さんがお給料を
もらうときに分けていただいている税金、こういったもので使っている
わけでありまして。目には見えないけれども、命を救うために税金を使っ
て仕事をさせていただいているのが私たち議会であり、また役所であり
ます。目に見えないからといって、何もしていないわけではなく、目に見
えないからこそ大事なときのために一生懸命に仕事をしている、こう
いう世の中の、また、行政というんですけれども、社会の仕組みを勉強
できたのではないかなというふうにも思っております。

どうか、名古屋の宝である皆さんでありますので、この第6委員会で
見て学んだこと、またみんなで議論したことを生かして、立派な大人に
なって名古屋をもっともっとよいまちにしていきたいと思います。

以上、私から感謝の言葉でございます。本当にありがとうございます。
御苦労さまでした。